

過ちは繰り返しませぬ

昭和25年11月、パール博士は広島島の爆心地に近い本川小学校講堂で開かれた世界連邦アジア会議に、ゲストとして参加した。その時、怒りを込めてこう言っている。
(以下は「原子爆弾」というサイトから転載)

人種問題、民族問題が未解決である間は、世界連邦は空念仏である。
広島、長崎に投下された原爆の口実は何であったか。
日本は投下される何の理由が

(有)西川経営オフィスサービス
中村会計
事務所便り
2009年8月17日 (月) NO 54
地域から明るい未来を作ろう

あったか。
当時すでに日本はソ連を通じて降伏の意思表示していたではないか。
それにもかかわらず、この残酷な爆弾を《実験》として広島に投下した。
同じ白人同士のドイツにではなく日本にである。
そこに人種偏見はなかったか。
しかもこの惨劇については、いまだ彼らの口から懺悔の言葉を聞いていない。
彼らの手はまだ清められていない。
こんな状態でどうして彼らと平和を語ることができなのか。
※ 講演後の11月5日、パール博士は広島島の原爆慰霊碑に献花して黙祷を捧げた。その碑文「安らかに眠って下さい。過ちは繰り返しませんから」の意味を理解した博士の表情は厳しくなっていた。
この《過ちは繰り返さぬ》という過ちは誰の行為をさしているのか。
もちろん、日本人が日本人に謝っていることは明らかだ。

期日前投票に行こう

NHKの番組に「あの人に会いたい」という毎週火曜日の番組があります。
既に亡くなつた懐かしい方を目の当たりにできる番組です。
先日95才で亡くなられた「橋のない川」の作者「住井すゑ」さんを取り上げました。

あの人に会いたい

「人間は時間の下に全て平等



封鎖し、石油禁輸まで行って挑発した上、ハルノート突きつけてきた。
アメリカこそ開戦の責任者である。
広島と長崎に落とされた原爆は、併せて33万人の死者を出した。広島市に投下されたリトルボーイは「濃縮ウラン型」であり、長崎市に投下されたファットマンは「プルトリウム型」だった。この二つの異なるタイプの原爆を使用したことは、原爆の殺傷能力を試す生物学的な実験だったことを物語る。そのために、広島市民と長崎市民がモルモットにされたのである。
米軍は爆発後の生存者に治療を積極的に行わなかったことは、被爆者の経時的観察を
もう一つの目的は、当時ライバルであった大国のソ連に対する示威行為であった。これが戦後の二大大国の核兵器増強の原型になっている。つまり、原爆投下は、生物学的実験とソ連を威嚇するためだったのである。
【泉州の泉】より

権力者の不条理に対しても不条理は不条理として正面に掲げる気迫と覚悟、媚びを売

「死は地球上以外に旅立つことである。」とである。
哲学的で主義主張の確立。生き方と、弱者に対する深い思いを貫いた

「日本」の母であつた。